
コラム 3

南部独立の選択

～暫定自治政府（GOSS）ベンジャミン情報大臣に聞く～

私は、1956年ルンベック（現在のレイク州の州都）で生まれた。第1次内戦の戦禍を逃れエルオベイドへ行き、教育を受けた。ちょうど大学に進学する頃にアジス・アベバ合意があったため、南部人である自分もカイロに留学することができた。さらに幸運なことに、奨学金を得ることができて、ロンドンで医学を学び、帰国後は、ハルツーム教育病院や州病院で医師として働いた。

1983年に第2次内戦に突入すると、私はスーダン人民解放戦線（SPLM）に参加し、そこでは留学の経験が買われ、SPLMのロンドン事務所で5年間仕事をすることになった。その後、SPLMのジンバブエ事務所に転勤になった。その後は、カーター財団の支援などもあり、ナイロビで和平協議の準備をする仕事を手伝っていた。

2000年を過ぎた頃から和平協議が本格化し、民主化運動（NDA）の事務局長を務めることになり、和平協議に参加してきた。

CPA後は、2005年からスーダン統一政府の国際協力省（MIC）の国務大臣を務めて、その頃JICAと知り合うことになった。

南北スーダンは、かつてその歴史上、まともな1つの国として統治されたことはなかった。常にアラブ人などの政権にイスラム法の適用などで抑圧されてきたし、CPA以降だって、南部の人が期待するような開発は行われなかった（だまされた）。こうして、幾多の困難があっても、住民が独立を選択するのはやむを得ないことだと思う。

以上

